もし…

どこかへ向かう駅のなかで
ふと　わたしは考える
もし　この電車に乗らなかったら
もし　あの電車に乗っていたら
わたしの人生は　まったく別の
ものになって　ゆくのかもしれない

たった一本の電車のちがいから
異なる人生の線路がはじまる
再生のみで　巻き戻せない時間
ひとりだけしか　いないわたし
ほんのわずかなズレでも
決して　同じ人生には戻らない
生きるということは　その瞬間、瞬間が
大きな　分岐点なのだと思う
わたしは　そう思う

もし　あの電車に乗っていたら
もし　あの電話をとっていたら
もし　あの手紙をだしていたら
もし　あの人を追いかけていたら

頭が「もし…」でいっぱいになると
後悔に似た想いが押し寄せて
雑踏のなか　ひとり　たちすくむ
人にぶつかられて　我にかえり
わたしは自分に強く　言い聞かせる

「もし」の線路を進んでいたら
突然の事故や事件に遭って
とっくに　死んでいたかもしれない
今　わたしは生きている
とりあえず　生きている
それだけでも　よかったのだと

それでも　もし　できるなら
わたしはひとめ　逢ってみたい
「もし」の線路を進んでいった
もうひとりの　同い年のわたしに

そして　遠くからそっと
テレパシーで　聞いてみたい
「今、あなたは幸せですか。
かけがえのない人と
寄りそいあって　生きていますか」